

2022年10月26日

## 2022年度 会派おおぞら 管外研修報告書

報告者 前野 文孝

1. 研修期間 : 2022年10月 4日(火)～10月 6日(木)
2. 同行会派 : ひかり、豊岡市議会公明党、つなぐ(4会派合同視察)
3. 研修自治体

### (1)高山市

市役所 : 〒506-8555 岐阜県高山市花岡町2丁目18

人口 : 82,311人 (推計人口、2022年9月1日)

面積 : 2,177.61 km<sup>2</sup>

概要 : 2005年2月1日 大野郡丹生川村・清見村・荘川村・宮村・久々野町・朝日村・高根村、吉城郡国府町・上宝村を編入して、日本最大の面積を誇る市となった。豊岡市と比較して人口はほぼ同じながら、面積は3倍。

西に白山、東に穂高岳、乗鞍岳などの名山があり、奥飛騨温泉郷などの、温泉地が各地にあり、中心に高山市街地が存在し、そこにも「古い町並み」とよばれる重要伝統的建造物群保存地区があり、魅力的な観光資源を多くもつ。

### (2)飛騨市

市役所 : 〒509-4232 岐阜県飛騨市古川町本町2-22

人口 : 21,677人 (推計人口、2022年9月1日)

面積 : 792.53 km<sup>2</sup>

概要 : 2004年2月1日 - 平成の大合併により吉城郡古川町・神岡町・河合村・宮川村が合併して飛騨市が誕生した。面積は豊岡市と同じながら、人口は約1/4。

中心地である飛騨古川駅前には地元住民により白壁蔵造りの建物が並ぶ街並みが守られている。近年、散策に訪れる観光客が多くなり、住民による町おこしが成果を挙げている。

ユネスコ無形文化財に指定されている「古川祭」、飛騨三大祭のひとつ「神岡祭」、縁結びの「三寺まいり」など優れた祭りもある。地場産業として清酒造り、和ろうそく、木工製品がある。

### 3. 研修内容

#### (1) 高山市の観光について

##### ア. 高山市の国内観光について

担当者：飛騨高山プロモーション戦略部 観光課長 清水浩一 様

- ・統計の取り方に違いがあるために一概に言えないが、コロナ前2017年の高山市の日帰り客は2,410千人(大交流ビジョン)、豊岡市の2,327千人と大きな差はない。
- ・宿泊者数については高山市が2,213千人、豊岡市は1,167千人と2倍にもなる。
- ・宿泊者の観光消費額は高山市が34,692円に対し、豊岡市が21,578千円。観光客数と乗じた産業規模は豊岡市の3倍以上になる。
- ・産業構造は一次産業が1割、二次産業が2割、三次産業が七割を占め、観光業の割合が大きく、高山市にとって観光は主力産業。
- ・他の地方都市と同様に人口減少が激しく、人手不足が心配である。
- ・高山市の観光の強み
  - －祭・屋台・・・春と秋にある高山祭はユネスコ無形文化遺産に登録
  - －歴史的文化資源・・・古い町並み、飛騨民俗村など
  - －自然・・・乗鞍スカイライン、北アルプス、飛騨ロープウェイ、スキー場
  - －温泉・・・飛騨高山温泉、奥飛騨温泉郷など多数
  - －食文化・・・飛騨牛、山菜料理、朴葉みそ、高山ラーメンなど
  - －朝市・・・市内二か所で開催されている
  - －工芸品・・・飛騨春慶、一位一刀彫、さるぼぼ、家具など
- ・通年型の観光づくりのために農山村体験(グリーンツーリズム)を展開
- ・飛騨高山ウルトラマラソンでは六月の閑散期の観光施策。市民がボランティアでもてなし、市長がゴールでハグをして迎える。
- ・「松本高山 Big Bridge 構想」松本市と協力して、二つの都市の間にある北アルプス、里山、アクティビティを自由に楽しんでもらえる環境づくりを進める。環境省が協力して自然公園の観光地化を行う。
- ・「高山市第八次総合計画」の中では、まちづくりの方向性の第一に「多様な働き方と優れた産品、サービスで財を稼ぐ」とした。これを踏まえて、観光施策はコロナ後の状況分析を含めて、行政、市民、事業者が同じ考えかた、方向性に向かって進められる。





飛騨市役所



研修中の様子

#### イ. 高山のインバウンド戦略について

担当者：高山市海外戦略課 課長 永田友和 様

- ・積極的なプロモーションを行ってきた。旅行博・見本市への参加、メディア、旅行会社、航空会社への直接的な PR
- ・市長によるトップセールスにより、意思決定者と直接交渉ができる
- ・多言語にこだわり、ホームページ、SNS、パンフレットによるプロモーションを行う。
- ・1週間利用可能なフリーWi-Fiの設置と、登録時に個人メールアドレスの収集を行い、観光・緊急情報の提供だけでなく、マーケティングにつなげている
- ・インフォメーションオフィスを市内二か所に設置。佐川急便による手荷物預かりと宅配受付カウンター、着地型観光の情報提供、免税カウンターの設置を行っている。
- ・「おもてなし国際化促進事業補助金」として、民間事業者が外国人観光客を受け入れるための自社パンフレットや看板の作成に対して上限 1/3、10万円の補助を行う。
- ・広域連携の成功
  - －「北陸・飛騨・信州3つ星街道」ミシュラン・グリーンガイドで3つ星の観光地が連携（松本・飛騨高山・白川郷・ご箇所山・金沢）
  - －「昇龍道」愛知・岐阜・三重・静岡・長野・富山・石川・福井・滋賀）
  - －「杉原千畝ルート」（八百津・敦賀・名古屋・飛騨高山・白川郷・金沢）
- ・コロナ禍における海外戦略
  - －「Dreaming アクション」高山への訪問を想起させる、高山を忘れさ

せない取り組み。SNS や動画配信

- －「Planning アクション」高山市への訪問のために計画させる取り組み。オンライン商談会などへの積極的な参加。旅行会社へのオンライン商談。
- －「Welcoming アクション」訪問したときがっかりさせない取り組み。コロナ対策、異文化理解、多文化共生の促進、外国人向けワンストップ医療相談窓口の設置など。



飛騨市議会 議場



飛騨市議会 議場

#### ウ. 現場視察

午後から「古い町並み」を中心に高山市の観光の現状を視察した。確かに国内外の観光客をひきつける素晴らしい町並みがそこにあり、優れた特産品には商品力があり観光客は楽しそうに買い物をしてきた。高山祭の屋台も拝見したが素晴らしい祭りが人々を魅了することも理解できた。

インバウンドに取り組む市の施設を見学した。

##### (1) 「まちなか観光案内所」

高山観光コンベンション協会が指定管理。観光案内だけでなく、免税窓口、着地型観光の案内も行われている。外国人スタッフがいてインバウンド対応も万全。佐川急便による、手荷物預かり・宅配受付サービスもある。

##### (2) 「飛騨高山まちかど観光案内所」

古い町並みの中央にある観光案内所。シルバー人材センターによる指定管理



(3) 「EaTown(イータウン)飛驒高山」

高山市が出資する(株)まちづくり飛驒高山が運営する外国人おもて梨施設。飲食店が入店し、日本文化を紹介するショーが行われていた。



美しい「古い町並み」



信用金庫内にある「まちなか観光案内所」



案内所には免税受付機能などもある



佐川急便の手荷物預かり、配送サービスもある



まちかど観光案内所



外国人もてなし施設 EaTown 飛驒高山



EaTown 飛騨高山内部



歩きやすい段差のない車道と歩道

### <高山市視察研修の所感>

副市長時代にインバウンド施策を展開するにあたり、先駆的に取り組みをはじめ、成功を収めていた高山市を参考にすることは少なくなかった。一度、現地で担当者からお話を聞き、現地を拝見したかったのが、大変勉強になった。

ただ、コロナ禍により2/5に観光客が急減し、観光客に依存する飲食店やお店の多くが閉店しており、豊岡市に比べて観光依存度の高い高山市の影響の深刻さは豊岡市の比ではないことが分かった。

その中で、これまでの観光施策が本当に正しかったのかも含めて検討したいという市の姿勢に感銘を受けた。

観光情報をよりリアルタイムかつ詳細にとりたいということで、複数の宿泊施設とシステムの開発を行っておられる。豊岡市も3年前から観光DXに取り組んでおり、情報交換ができればと思う。

なお、街中を歩いて驚いたのは歩道と道路の段差がほとんどなく、バリアフリー化が進んでいて、とても歩きやすかった。高山市は公共施設だけでなく、道路インフラも含めてバリアフリー化を進めていて、これからの障害者を含めたユニバーサルツーリズムにも大いなる可能性を感じた。

高山市ならばきっとコロナ禍からの復活を遂げられると確信している。



(2) 飛騨市の「広葉樹のまちによる地方創生」

担当者：農林部林業振興課 課長 竹田慎二 様

ア. 市の取り組みについて

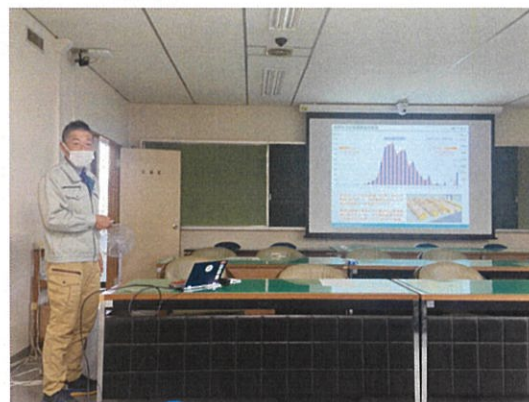
- ・竹田氏は企画部で地方創生に取り組んでいる時に地方創生につながる地域資源を探していた。飛騨市は93.5%が森林で、68%を広葉樹林が占めている。広葉樹を使えないかと思いつく。
- ・しかしながら飛騨の広葉樹の林業はもうかっていなかった。

<理由>

- －日本の森林行政のほぼすべてが針葉樹・人口林に対するもの。広葉樹には補助が出ない。
- －広葉樹のほとんどが戦時中に燃料として伐採され大きな木材が採れないなどの理由で家具製作などの広葉樹の需要者は海外産の広葉樹を輸入している。
- －伐採側も建築規格の材料以外はすべて使えないと判断して、広葉樹のほとんどをチップにしてしまう。
- －近年のウッドショックなどにより輸入広葉樹の価格が高騰していて、飛騨産の広葉樹に競争力が生まれている。しかし、上の理由から流通しない。



視察中の様子



説明をしてくださった竹田課長

・広葉樹の価値創造① 「主体を作る」

ー第3セクター「株式会社 飛驒の森で熊が踊る」を開設

市だけでは困難であった広葉樹の活用に必要な新しいアイデアやノウハウ、ネットワークを有する民間企業2社とともに法人を設立。

国内外、様々なクリエイターとのコラボレーションにより、これまででない価値の高い木製品を企画・製作・販売することが可能に。

「株式会社トビムシ」・・・森林資源を起点とした地域商社・機能会社の設立・運営を行う会社

「株式会社ロフトワーク」・・・数万人のクリエイターのネットワークとコミュニティ運営ノウハウを有する

ー町の中にある大きな古民家をリノベーションして FabCafeHida を設立。

カフェ、木製品の企画・開発、プロトタイピング、滞在（宿泊）、イベント開催等の機能を有したクリエイティブな空間。

広葉樹の価値創造①【主体をつくる】



株式会社飛驒の森でクマは踊る（通称「ヒダクマ」）の設立

これまで難しかった広葉樹の活用に必要な新しいアイデアやノウハウ、ネットワークを有する民間企業2社とともに法人を設立。国内外を問わず、様々なクリエイターとのコラボレーションすることにより、これまででない価値の高い木製品を企画・製作・販売することが可能に。

ヒダクマを構成する企業等

**tobimushi**

出資比率：13.5%  
(設立時：25%)

都市部へのチャネルを活用した新たな商品（上記）の販売と林業・木材流通の新たな仕組みづくりを行う。



**loftwork**  
出資比率：54.0%  
(設立時：25%)

国内外のクリエイターネットワークを活用し、小径木による新たな商品を世界のものづくり人材や異業種との交流により生み出す（デザインする）。

**飛驒市**  
出資比率：32.5%  
(設立時：50%)

豊かな森林資源（広葉樹）と高い木工加工技術により持続可能な地域づくりを目指す。市有林約20haも現物出資。

主体を作る「(株) 飛驒の森で熊が踊る」設立



## アイデアの共有・活用を可能にする拠点「FabCafeHida」

飛騨市

**FabCafe**  
what do you fab?

FabCafeHidaは、ヒダクマが経営するカフェ、木製品の企画・開発、プロトタイピング、滞在（宿泊）、イベント開催等の機能を有したクリエイティブな空間。

(世界とつながるFabCafeネットワーク)

- ①FabCafe Tokyo (日本) ②FabCafe Nagoya (日本) ③FabCafe Kyoto (日本) ④**FabCafe Hida** (日本)  
⑤FabCafe Taipei (台湾) ⑥FabCafe Toulouse (フランス) ⑦FabCafe HongKong (中国)  
⑧FabCafe Barcelona (スペイン) ⑨FabCafe Strasbourg (フランス) ⑩FabCafe Monterrey (メキシコ)  
⑪FabCafe KualaLumpur (マレーシア) ⑫FabCafe Bangkok (タイ) ⑬FabCafe Mexico City (メキシコ)



FabCafe Hida 設立

## FabCafeHidaの機能を活用した商品開発

飛騨市



FabCafe の機能

・広葉樹の価値創造② 「仕組みを変える」

ー川上（森林整備）と川中（製材業者）、川下（家具・木工制作者）との情報共有ができていないことからミスマッチが起き、広葉樹はチップにされてしまう。

「例」建築資材は1間が基準で我を考えると2.1メートルの長さで節無しでないと不適格材という上・中流の考え、川下は家具や木工製品ならば使える。

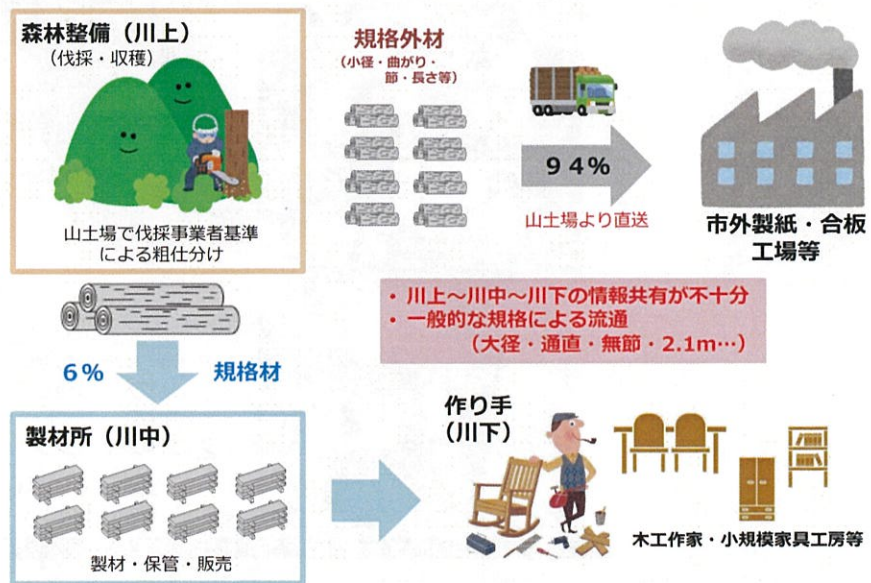
ー飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアムの設立

広葉樹林による地方創生に共感した市内及び飛騨地域の関係プレイヤー（素材生産者、製材事業者、木製品企画・開発、製造、販売等事業者、建築事業者等のステークホルダー）17社（者）と行政（国・県・市）により設立。

ー製材所に中間土場という、使えるかどうかわからない広葉樹を保存展示する場所を設置

ー広葉樹活用コンシユルジュを配置し、マッチングや新たな販路の拡大に努める

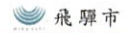
広葉樹の価値創造②【仕組みを変える】



広葉樹木材の流通の仕組みを変える必要性



## 飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアムの設立



飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアムは、取り組みの趣旨に賛同する市内及び飛騨地域の関係プレイヤー（素材生産者、製材事業者、木製品企画・開発、製造、販売等事業者、建築事業者等のステークホルダー）17社（者）と行政（国・県・市）により設立。

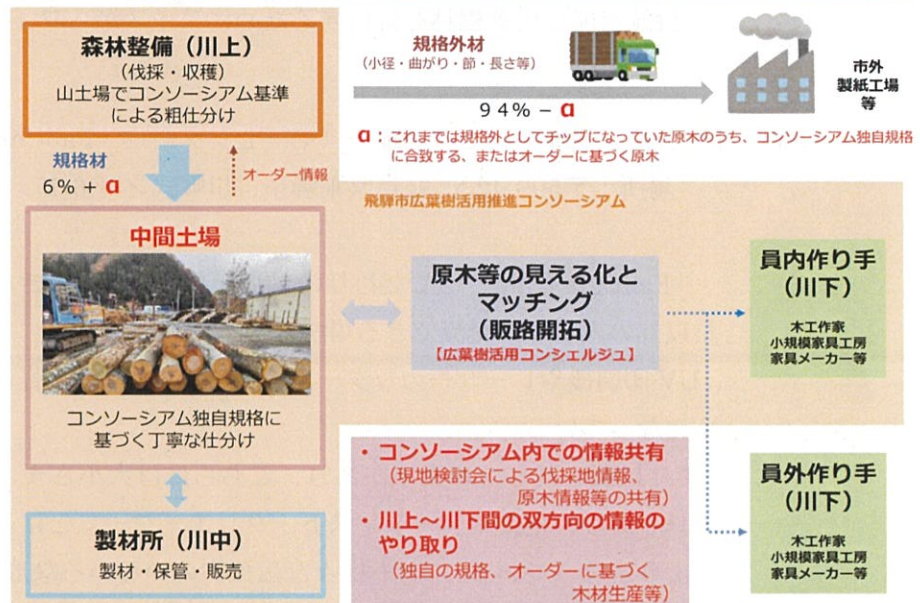
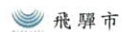


コンソーシアム会員がそれぞれの役割（努力目標）を明確にし、会員相互の連携・協力の下で地域内サプライチェーンの構築を目指す。また、令和2年度から4年度までの3カ年を当事業推進におけるパイロット期間と位置付け、市はその間に必要な支援を行う。

© 2022 Gifu Prefecture Hida City

関係者が力を合わせる仕組みを作った

## 新たな広葉樹流通（サプライチェーンからバリューチェーンへ）



© 2022 Gifu Prefecture Hida City

新しい広葉樹の流通の仕組みができつつある

- ・安定供給のために伐採方法や木材の乾燥技術についても研究を進めている
- ・国や県の支援策がない、広葉樹林の活用のために森林環境贈与税の一部を投入して、より使いやすくする。

### 価値の高い森づくり（スイス・フォレスター研修）



スイスからフォレスターを招聘し、育成木施業（活力があり質の高い優良木に焦点を当て、その木の生長を阻害する周りの木を集中的に伐採する施業方法で将来木施業とも言う）を学ぶ研修会を令和元年度まで8年連続で開催（※R2・R3・R4はコロナ禍により中断）。

© 2022 Gifu Prefecture Hida City

持続可能な広葉樹林を維持するためにスイスからフォレスターを招聘

イ. 株式会社 飛騨の森で熊が踊る（第三セクター） FabCafe Hid 現地視察  
場所：〒509-4235 岐阜県飛騨市古川町弐之町 6-17

「FabCafe Hida」はこだわりのドリンクと軽食を頂きながら市内の方々とそれ以外の人たちが交流できる場所になっていた。

UV印刷機やレーザーカッターが設置されていて、気軽に木工体験ができるようになっている。

奥には蔵を使った作業所があり、こちらには大小さまざまな木工機械や塗装道具もあり、企業やアーティスト、クリエイターなどによる製品の試作ができるようになっている。木材も様々な広葉樹のいろいろな形をしたものがおかれ、思わぬものに使われるなど、新しい発見が生まれている。

宿泊もできるようになっていて、企業や海外の大学の合宿が行われたりしており、交流人口の拡大にも一役買っている。





FabCafe 研修中の様子



町中にある FabCafe



Café 機能



Café 内にある工房の様子



工房内を視察



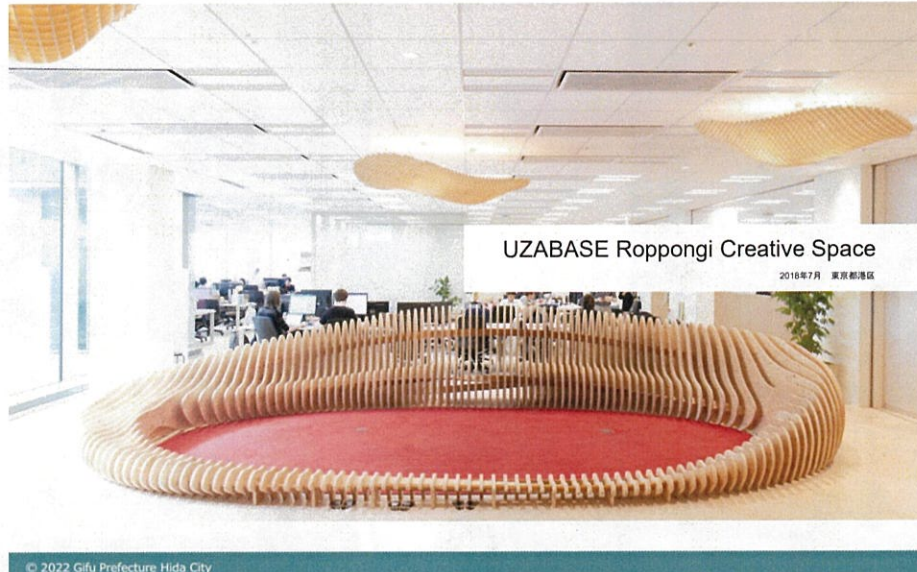
様々な製品の試作が行われている工房



## 小径木広葉樹の活用事例

飛驒市

【オフィス・空間】



制作例① 小径木広葉樹を使った木製ベンチ

## 小径木広葉樹の活用事例

飛驒市

【オフィス・空間】



制作例② 小径木広葉樹を使ったオフィスの木質化



#### <飛騨市視察研修の所感>

飛騨市にお邪魔したのは豊岡市版 DMO 豊岡慣行イノベーションのセミナーに「(株)飛騨の森で熊が踊る」の当時の社員 森口氏を講師に招いたことがきっかけ。当時、DMO の副理事長であった私は大変興味を持って拝見した。特に広葉樹と人口減少対策である地方創生をどのように結びつけたのか興味があり、一度訪問して実見したかった。

飛騨市が広葉樹に目を付けたのは理由がある。優れた観光資源をたくさん持っている市ではあるが、隣接する高山市の観光分野での優位性と、隣同士であるために似た部分があり、観光だけでは地方創生を成し遂げられないという点だ。

そこで、着目したのが広い市域にたくさん存在する広葉樹。しかしながら、利用するための仕組みや儲ける方法がなかった。そこで、市の職員が市内の団体や個人と様々な話し合いを何度も繰り返し、仕組みを作り続けていって、成功への道が見えてきたと思う。こうした職員の熱意。市の熱意が必要だと感じた。議会としてもそこを理解し、協力していく考えが必要だとも思った。

豊岡市も飛騨市と同じく森林が多く、約50%が広葉樹林。家具職人や木製ハンガーの会社もある。豊岡市の森林行政の今後を考える、あるいは昔たくさんあった木工の産業の振興ができればと思う中で、大いに参考になった。

#### 4. 総括

高山市と飛騨市の取り組みは、「観光振興」と「広葉樹の活用」とそれぞれ違うが、その目的は人口減少対策である地方創生である。

高山市では年間約3,000人の移住者があるとのことで、素晴らしい成果を上げている。課題は高校生がいかにか高山市に帰ってくるかという点。そのためにもより魅力ある観光地を目指すということ。

飛騨市はこれからだと思うが、すでに交流人口の増加を達成しており、魅力的な事業であることから、成功されると思う。

両市の取り組みは大変すばらしく、市が強いリーダーシップを持って、関係機関と強力な関係を構築し、力強い歩みを続けておられる。そういった面でも豊岡市は見習わねばならないところがたくさんあり、豊岡市の今後の市政推進のために参考になった。

以上

